発表会参加報告

2017 年 10 月 1 日（日）に毎年恒例のフォレストパークあだたら生き物調査発表会が大玉村のフォレストパークあだたら，ビジターセンター・レクチャーホールにて開催されました。一般参加は 8 名と，昨年よりもさらに減ってしまいました（昨年は 11 名）。福島大学の学生と教員も会わせた参加者数は 35 名でした。発表は福島大学の生物系研究室の学生・院生 8 名，教員 1 名の 9 題でした。プロジェクト関係（磐梯朝日国立公園及びその周辺をフィールドとした発表）は塘研の学生による３題，兼子研の院生による１題の計３題でした。以下，簡単に報告します。

主催者を代表して公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団の弦間さんから挨拶があった後，9:35 頃から発表がスタートしました。質疑応答を含めて一人 20 分，発表者入れ替えの時間５分，と余裕のある時間設定をして頂いたため，昨年と同様に丁寧な説明と発表，充分な質疑応答が可能となりました。午前中の学類生の部では，塘研の熊谷大樹君が野地温泉付近や裏磐梯の小野川不動滝周辺で採集されるカギカニムシ類（*Bisetocreagris* 属）の種分類に関する研究と関わって，『*Bisetocreagris* 属（カニムシ目：コケカニムシ科）の紡績腺（兜状体）の新たな観察方法』とのタイトルで発表しました。塘研の佐々木信彰君は磐梯山の登山道沿いにある銅沼の水生昆虫群集の食物網解析を進めていますが，今回は 6 月に生息が確認された各種の食性に関して発表しました：タイトル『安定同位体比と消化管内容物を用いた酸性湖沼銅沼に生息する水生昆虫の食性解析』。塘研の鈴木花苗さんは志賀澄歌-木目澤友梨恵-角田真琴という maternal に受け継がれてきた山岳域特異的に生息するアザミウマ，*Thrips* 属の未同定種に関する研究を進めていますが，今回は『福島県内外の山岳域特異的に分布するアザミウマ *Thrips* sp.（アザミウマ目：アザミウマ科）の遺伝的分化』とのタイトルで発表しました。昼食を食べながら，これも例年同様に福島大学関係者と一般参加者とが意見交換，情報交換など，交流を深めました。午後の院生の部では，兼子研の佐藤なつきさんが『絶滅危惧植物クマガイソウの繁殖～地下茎だけで増える？種でも増える？～』とのタイトルで発表しました。

このほか，午前中に黒沢研の齋藤佑樹君が『アサマフウロやハナムグラは残っているか？白河市白坂大池の植物相』，午後に黒沢研の薄井創太君が『刈安茅場の現状と保全』，曲渕詩織さんが『東日本大震災とその後の復旧事業が沿岸域の植生や植物相に与えた影響（実際の発表タイトルはこれとは違って変更された)』，兼子研の藤間理央君が『原発事故被災地で増加した野生哺乳類の適正管理に向けた遺伝構造解析～ミトコンドリア DNA を用いたイノシシ個体群の交雑解析～』とのタイトルで発表しました。黒沢研の院生は沿岸部と内陸部（会津地方）におけるフィールドワークと，得られたデータの解析（が間に合わなかった部分もありましたが）の結果を，兼子研の院生は DNA 解析に基づく被災地におけるイノブタの頻度推定の結果を紹介してくれました。最後に教員の部として，兼子さんが『福島のイノシシはこれからも増えていくのか？～保全遺伝学が予見する二つの未来～』とのタイトルでレクチャーを実施して下さいました。ホワイトボードを使ったいわゆるトーク＆チョークスタイルのレクチャーでしたが，参加者は今後のイノシシの未来予想図が描けたのではないでしょうか。最後に発表全体についての質疑・応答を行い，15:20 頃に閉会となりました。

広報活動については，主催者側と検討し，今回は応用地質株式会社の方が 2 名参加して下さり，専門的な質問やコメントを頂けたのは大変ありがたかったです。ただし，広報についてはさらなる検討と改善が必要と感じました。

齋藤君の発表

熊谷君の発表

佐々木君の発表

鈴木さんの発表

薄井君の発表

曲渕さんの発表

佐藤さんの発表

藤間君の発表

兼子さんのレクチャー

会場の様子１

会場の様子２